

保育園七夕祭り

中央保育園

7月17日



第714号
 発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (8月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,345人
 女 3,382人
 総人口 6,727人
 世帯数 2,198戸



南保育園

16



北保育園

コロナ禍においても、子どもたちの輝く笑顔のために

子ども課長兼総園長 北原理恵

元気な新入園児をお迎えし新たな年度がスタートした数日後、村内の学校が休業となりました。一方で、保育園は保護者の就労を支えるため、登園自粛の願いをした上で、保育を継続しました。

「子どもの安全」か「就労」か、保護者の方々も心が揺らぎ、迷い、不安でいっぱいだったことと思います。大人の隣で生きる子どもも、同様に不安な姿を見せていました。

「全ての仕事は社会を維持するために必要」との考えの基、保育を必要とする子どもがいる限り、私たち保育園職員は両手を広げて明るく温かく受け入れよう」と心に決めました。

乳幼児を預かる保育園はまさに三密の場。嬉しい時も、悲しい時も、子どもは保育士の胸に飛び込んできます。

「数多く存在する感染リスクの中で、笑顔忘れなかった保育士。子どもの健康のために完全給食を一日も欠かさず作った栄養士と調理員。この、目に見えない恐怖との戦いは、今この時も続いています。」

そんな職員に勇気と元気を与え、心の支えとなりましたのは、保護者の皆様、関係される皆様のご理解とご協力、そして、紛れもなく子どもたちの輝く笑顔でした。

これまで誰も経験したことのない社会の中ではありますが、子ども達にはたくさん笑って、たくさん泣いて、今しかできない感動の体験を味わって欲しいと、「ピンチをチャンスに!!」を合言葉にそれぞれの保育園では子どもが主体的に楽しめる保育を行っています。今年度はこれまでにいくつ

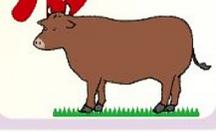


七夕祭り特別メニュー

もの行事が中止や変更となり、関係される皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、秋の運動会は安全対策をとって開催できるように準備を進めております。

これからも、一人ひとりの子どもが主役となり、笑顔いっぱい生活を送ることができましよう、今後とも皆様の温かなお力添えをよろしくお願いたします。

豊丘産南信州牛 大バザール



村では、新型コロナウイルス感染症に対する支援策として、飲食店を支援するテイクアウトクーポン券の発行や、プレミアム付お食事券の販売に取り組んできましたが、農業面においても、オリンピックの延期や外食産業の休業等により、牛肉市場価格が低迷し、村内の肉牛肥育農家において、極めて深刻な状況下にありました。

こうした中、JAや農家の皆様と協議し、村内においてあまり出回らない高級ブランド牛である「南信州牛」を村が昨年並みの市場価格で買い上げ、皆様にご購入いただくことで、肉牛肥育農家の応援と、肉牛産産を守る取り組みを、村を挙げて行うことといたしました。

その第一回目として、七月二十三日と二十四日に、それぞれ一頭の肉牛を、道の駅南信州とよおかマルシェ内、四季彩市場において販売しました。

当日は、マルシェがオープンする午前九時からの販売となりましたが、早い方は八時前から並んでくださり、午前九時の販売時には二百名を超える皆様を列をなし、用意した牛肉、概ね五五〇パックが、両日とも一時間ほどで完売する大盛況となりました。

せっかく並ばれたのに、ご購入いただけなかった方に、誠に申し訳ありませんでした。

今回の取り組みを通じ、高級ブランド和牛が、皆様に高評価をいただいていることが感じられ、肉牛生産農家にとっても、自信と意欲の高揚につながったものと信じております。

今回このような大盛況をいただいたことから、第二回目の販売を、農家の肉牛出荷との調整を図りながら、



(産業建設課)

この秋にも取り組んでまいりますので、ご期待いただくとともに、応援をお願い申し上げます。

「生きるとはなんだ?」息していることか? それもそう、でもそれだけじゃないな」長野県上田市出身のラップグループ MOROHA の「米」という曲の歌詞の一節だ。「生きる」ということは何なのだろうか? と考えることが増える最近の状況でこの曲の歌詞が一層しみるようになった。長野県に移住してきて、僕の日々は「生きていく」ことから「暮らしている」ことに変化している。東京での日々は、仕事に行き、帰ってきたらご飯を食べて、寝て、また起きて仕事に行き、それこそ「ただ生きていく」だけだったように思う。長野県に来て三度目の夏を迎える今、僕の日々は家事があり、草木染を中心としたモノづくりを通して感じる季節がある。そして田植えの風景や、鯉のぼり、五色の短冊、行事を通して感じる四季がある。息しているだけではない生活。ただ生きていくだけでなく、暮らしている。そんな実感ができる長野県での日々感謝をしながら、さらに言えば新型コロナウイルスに生活を脅かされても人と人とのつながりを大切にこれからも暮らしていきたいと思っている。

(津田孝平)

〇 殺丘

「生きるとはなんだ?」息していることか? それもそう、でもそれだけじゃないな」長野県上田市出身のラップグループ MOROHA の「米」という曲の歌詞の一節だ。「生きる」ということは何なのだろうか? と考えることが増える最近の状況でこの曲の歌詞が一層しみるようになった。長野県に移住してきて、僕の日々は「生きていく」ことから「暮らしている」ことに変化している。東京での日々は、仕事に行き、帰ってきたらご飯を食べて、寝て、また起きて仕事に行き、それこそ「ただ生きていく」だけだったように思う。長野県に来て三度目の夏を迎える今、僕の日々は家事があり、草木染を中心としたモノづくりを通して感じる季節がある。そして田植えの風景や、鯉のぼり、五色の短冊、行事を通して感じる四季がある。息しているだけではない生活。ただ生きていくだけでなく、暮らしている。そんな実感ができる長野県での日々感謝をしながら、さらに言えば新型コロナウイルスに生活を脅かされても人と人とのつながりを大切にこれからも暮らしていきたいと思っている。

(津田孝平)

第32回 伴野区夏の夜祭

第四分館館長 菅沼浩和

七月二十六日(日)に第三十二回「伴野区夏の夜祭」を開催しました。予定では二十五日(土)でしたが雨のため延期での開催となりました。コロナ禍の中ですが、今回は「なす子公園」をリニューアルし是非とも夏祭りを開催したいとの声から、どうすれば安全に開催できるか公民館員で何度も話し合いをし、感染防止対策として入場者に健康チェックシートの記入、マスクの着用、消毒液を各所に配置し安全、安心を確保して開催する事としました。しかし、公民館員の方ではどうする事もできない問題もありました。協賛の

り毎度の事ではあります。が、両日雨というのは今年が初めてでした。子供たちのイベントは中止とし、また最終の宝投げも中止とさせて頂いたのにも関わらず、開催時間となれば親子連れで参加して頂くご家族もありました。中学生の参加もあり意外ではありましたが、芸能は二団体ではあります。小野神社のお囃子は素晴らしい演奏でした。またカラオケクラブの大原さんの熱唱も素晴らしい場を盛り上げて頂きました。



今回は、雨でもあるし出店もなくコロナ禍の中、区民の皆さまの参加も少ないと予想されましたが、二百十三名の区民の皆さまに参加頂き、盛大かつ縮小の夏祭りが開催できました。区民の皆さま、商工会、工業団地支部、伴野区役員の方々の皆様のおかげでコロナ禍の中、夏の夜祭を開催できた事を感謝します。

雨のために延期した日曜日でもやはり雨となりました。このまま中止となるのも、これまでの過程からすると寂しい思いもあり、小雨でも決行する事としました。伴野区の夏祭りは三年連続雨天延期となっております。

雨のために延期した日曜日でもやはり雨となりました。このまま中止となるのも、これまでの過程からすると寂しい思いもあり、小雨でも決行する事としました。伴野区の夏祭りは三年連続雨天延期となっております。

虻川下流域三六災害体験談(15) 私自身の三六災体験談

原章(古畑)



三六災 伴野神社の山崩れ

三六災は大変恐ろしいものでしたが、虻川の様子などはあまり知らないで済ませました。三六災の時、私は小学生でした。当時の我が家にとって、伴野新田での米作りは、大切な生業の一つでした。伴野堤防決壊により、丹精込めて育てたイネとともに家の水田が一瞬のうちに流され跡形も無くなりました。両親が、打ちひしがれ沈んだ

上のも起りそう。亀裂がもう出来ている。など、デマも飛び、その事もあつてか何日間家から避難しました。このような経験から三六災のようなときに狭い伊那谷では、正確な情報を得ることと同時に、山崩れだけでなく川の危険も冷静に判断しなければならぬと思つています。「危ないから、川や崩れたところにはしばらく近づくな」という父の言葉も、はつきり覚えています。そのためか、荒れ狂った川から低くいつまでも伝わってきた恐ろしい音は記憶に残っています。今回の体験談などを聞くまで詳しく知らないで

三六災は大変恐ろしいものでしたが、虻川の様子などはあまり知らないで済ませました。三六災の時、私は小学生でした。当時の我が家にとって、伴野新田での米作りは、大切な生業の一つでした。伴野堤防決壊により、丹精込めて育てたイネとともに家の水田が一瞬のうちに流され跡形も無くなりました。両親が、打ちひしがれ沈んだ

マスク越しに弾ける笑顔

佐原地区農休日マレットゴルフ大会

第六分館長 小池光好

七月十九日(日)に佐原地区農休日マレットゴルフ大会が赤松林運動公園で行われました。屋外であること、会食を伴わないこと、参加者が例年ほば地区内の住民であること、郡下で新たにコロナ感染者が出ていないことを踏まえ、十分な感染予防策を講じることや三密の回避、参加者の名簿作成などを加味して判断し、開催することとしました。当日は、自宅及び会場での検温、手と用具の消毒、マスクの着用などの対策を取るとともに、グラウンドを一杯に使い、障害物等を設けにくい優しいコース設定とし、滞留が起らないようにしました。

雨の日が続く中、当日はこの日に合わせたかのような晴天。まず距離を置いたピンゴゲームを開始。続いてマレットゴルフ(全九ホール)に移りました。久しぶりに集う仲間達との楽しいひととき。心ならずも時々歓声があがるのは致し方ありません。マスク越しに弾ける笑顔が印象的で、天気と同様、晴れ晴れとした様子が伺えました。



外旅行では、中国、欧州、ハワイなどの多くを夫婦で訪れたのが懐かしい思い出だ。アルコールは、若い頃の車両運転の仕事柄、ほとんど飲まなかった習慣を今も守っている。

シリーズ「元氣な高齢者」⑦ 期せずと味わった三毛作人生 今の幸せ樂々

片桐博一さん 九十歳 城在住



昭和五年に現在地で、養蚕および米作を主とする両親の元、男ばかり五人兄弟の長男として生まれた。男ばかりのため家業の働き手として大いに期待され、それに応えるべく小学校時代から良く家業を手伝った。高等科を経て喬水の竜東農蚕学校を卒業、県立農事試験場で学びその修了時に終戦となり、しばらくは自宅で農業を手伝っていたが、縁があり二十二年に神稲森林組合製材工場へ入社した。翌年自動車部が発足、助手

となった。大乗坊、大鹿など山奥で切り出した木材を会社まで運搬する仕事で、自動車部が不可欠なため自動車教習場へ通い、運転免許を取得した。当時の車は木炭車で馬力は小さく、荷物を積み過ぎると走らなくなるため積み荷の加減に苦労した。

昭和五年に現在地で、養蚕および米作を主とする両親の元、男ばかり五人兄弟の長男として生まれた。男ばかりのため家業の働き手として大いに期待され、それに応えるべく小学校時代から良く家業を手伝った。高等科を経て喬水の竜東農蚕学校を卒業、県立農事試験場で学びその修了時に終戦となり、しばらくは自宅で農業を手伝っていたが、縁があり二十二年に神稲森林組合製材工場へ入社した。翌年自動車部が発足、助手

三六災害に遭った三十六年に神稲と河野の森林組合が合併し、神稲森林KKとなったが、翌々年三十八年に退職した。以後高森の豊丘木材に移り十五年間、最初の神稲森林組合から通算では、六十歳手前で止めるまで約三十年間にわたり木材関係人生であった。ずっと忙しく何かにつけて苦労したが、やり甲斐があった。その間ほとんどが運搬に関する仕事で、大型第二種、特種自動車、集材架線技士など特殊免許を取得し、

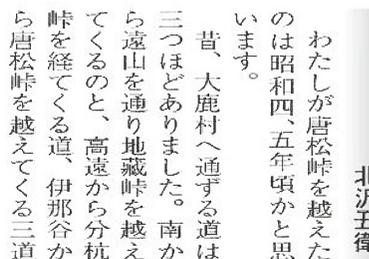
立っていたが、構造改善があり土地の有効活用が始まり水田から始まりリンゴ園に及んだ。博一さんは仲間の五人と共に、この二件の事業に携わった。特に井水では、村議、県議を始め、国会議員にまで陳情しきちんと整備されるまでに二十年かかった。在職中は木材事業とリンゴとの兼業であったが、退職後はリンゴ栽培に専念した。しかし安定した収入が見込めたそれまでの生活から、突然の大きな変化であったため、イチゴ、きゅうりなどを栽培し、生計を凌いだ。リンゴ栽培が軌道に乗るまでの六七年は生活が厳しかった。しかしその苦労の甲斐があり六十三年には「リンゴ最優秀賞」を頂くことが出来た。そんなリンゴ園を十年前に手放し、縁ある人に引き継いだ。

文責 桐崎長一

寄稿 「新型コロナボケ」を防ぐ為に

南市場 日下部富次

今年に入って「新型コロナウイルス」なる怪物の発生で世界中大騒ぎである。その怪物を防ぐために「三密」なる防止策が取り入れられた。この方法は私たちが超後期高齢者にとって極めて厳しい方法だった。さてどうやってこの危機を乗り越えようか悩んでいる所に、つい最近の中日新聞に「飯田の力石」の存在が載っていた。「力石」って何だろう、からまず見ようとなった。それは昔、若者たちが地域の祭りに「力比べ」に用いたものだということが分かった。持つ所も無い丸い石、約三十貫(一貫二七五kg)を持ち上げるなんて、現代の私達には考えられない重さだ。早速友達と二人で、昼食を買って見学に出かける。天気の良い日は野天で見晴らしの良い場所まで登る。今まで全く知らなかった場所や事柄もあり、未知の世界に入り感動の連続であった。いずれの石も後世に残したい逸物であるが、この「力石」以外に予期せぬ一品に出会うことが出来た。それは高森町歴史民俗資料館にある「石割りの松」だった。あの大きな石の小さな割れ目に生えた松が、今では直径十五cm程度あるかと思う木に成長しているのだ。私はその松の木の生命力にただただ感動しか無かった。その後一人で二回ほど行って来た。こうしたことが三密解消のボケ防止に役立つのかと問われそうだが、まず新しい興味を持つための材料発見に努める。訪れる場所には人が居ない。風が通って心地よい。季節の自然に直面できる。素晴らしい展望など、計り知れないプラス面が多い。これが家の中に居てもせずに無為に生活していたらコロナボケになる危険に晒される。



石割りの松

今後を楽しみにしている次第である。こうして次から次に興味本位のみで、たいした学問もせずに各地区を訪ね歩くのもボケ防止か、健康長寿の一つの方法かなと思う。



『豊丘村民話集』より

唐松峠の今昔

北沢丑衛

わたしが唐松峠を越えたのは昭和四、五年頃かと思えます。昔、大鹿村へ通ずる道は三つほどありました。南から遠山を通り地蔵峠を越えてくるのと、高遠から分杭峠を経てくる道、伊那谷から唐松峠を越えてくる三道



松川町七福神社境内の力石

俳句 短歌

山門を過ぎて四葩の空となり
田廻りの風にいろあり鶯啼てる
梅雨最中声の便りに励まされ
朝歩き馬頭観音の草いさげ
コロナ禍や見えぬものと打つ火花
コロナ禍や梅雨草足跡に農一途
溶け失せるまで形代を送りぬ
梅雨滂沱千々に砕くる加々須谷
村雨に咲き惑ひたる七変化
昨日の君脱ぎ捨てる娘よ夏初め
梅雨天龍龍蛇となりつ味えしきる
梅雨晴間隙のこせる車椅子
梅雨紫陽花命のしづくつづけをり
半夏生父のかたみの山頭火
高階の間に雷襲ひ来る
人の死や壁にひるがる微を見し

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
池田 美和
丸山 時子
林 恵美子
矢島千勢子
河手 洋子
細井 恵子
北原 昭子

なにしろこんな高い峠を越さなければならぬので、冬に雪が降ったら大変でした。この不便を感じ、長沢の木下文造が唐松峠の麓の井戸沢に問屋兼宿屋を開き、旅行者の便をはかりました。わたしもこの文造屋敷に行ってみましたが、屋敷跡にはハダンキョウやスモモなどが植えてありました。豊丘村史にも載っているように、一七〇〇メートルの峠越えはえらいから、明治二十年に豊丘村と大鹿村の有志の方々の骨折りで県知事をお願いして横手近道を作り、今もこの道が柄山の奥に残っているようであります。この近道も開通しはくもなく廃道になりました。

この天然の要害で、宗良親王も安心してお住まいになられたでしょう。西征の途につかれた時は本当に御難儀をされたでしょう。当

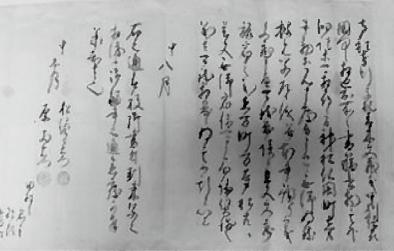
こちら資料館 207 青木昆陽が来村した?

青木昆陽(通称・文蔵)といえ、飢饉を救う作物としてサツマイモの普及を進めた人物として有名ですが、その昆陽にまつわる庄屋文書が当資料館でお預かりしている古文書の中にあるというところをある方に教えていただきました。

写真は元文五年(一七四〇)九月、阿島の役人から田村の庄屋宛に出された書状です。内容は「寺社奉行配下の青木文蔵(昆陽)が甲州

と信州を回って昔のことを記した書籍や書物を調べている。ついでに、社寺や在にある古文書等を見たり写したり借りたりと、文蔵の申す様にさせてもらいたい。また、宿の便宜も図ってほしい」というものです。

調べてみると、昆陽は大変多才な人で、サツマイモの栽培に携わった後、御書物御用達となって古文書調査に当たり、晩年は長崎に



味が湧くところです。(資料館主任 唐澤武彦)

行きオランダ語の習得に努めて辞書まで著してあります。さて、昆陽は実際当村へやって来たのでしょうか? 残念ながら、それに関する資料的なものは今のところ見つかっておりません。ただ、下伊那のある村では「そのような昔の文書等は一切ありません」と返事を出したことが記録に残っているようです。田村ではどのように対応したか、興

柳 (豊丘村川柳クラブ豊柳会)

▼課題「当」久保ひろし 選

適当な褒め言葉だが励まされ
当たり前この慢心が落ち穴
高額の当選夢見る宝くじ
松茸のやぶに当たって笑顔出る
当たり前の生活こそが青い鳥

原 美風
林 もも子
神福 邪道
安田 喜子
桃沢 健介

▼課題「教」互 選

爺婆の指に教えるスマートフォン
親の背が教えてくれた道がある
コロナから生き抜く知恵を教わって
世の中は教科書通りに行かぬもの

市沢 照子
西元 峯子
山本 義彦
福沢 勝美

▼自由吟 桃沢健介 選

認知症なつたふりしてはげかくす
始末する服と思ひ出語りあう
将棋界時代と共に新スタ
軸吟：食事券どう使おうか思案する

鎌倉美登里
小澤 凜
久保ひろし

南天の米粒のごと花房は満開なれど愛でる人なし
福澤貴美恵

久しぶり体操教室再開し友と逢えたり間隔あけて
壬生 千春

梅割りて今年もジュース作ろうよおいしくなあれと幼と懐け込む
筒井 恵子

バギー押し三児を連れて保育園に素敵な母御にエールを送る
大倉 知江

青あおと梅雨の畑の雑草はコロナに負けず雨にも負けず
松尾ヒサコ

梅雨末期長雨つづき水孕み避難の指示受け心の準備
松下 泰見

雨受けて紫陽花生き生き際立ちて野菜の横で玉役を誇る
北澤 秀子

山椒の実食べばあの子思ひ出す小粒なれどもパワーいっぱい
大原真由美

魔女のごと箒跨ぎて空を飛ぶメルヘンチックなてっぺん公園
福澤 龜人

~シリーズ~ 豊丘の自然 No.199

オオカマキリ (カマキリ科)



今月も村民の方からいただいた写真(オオカマキリの孵化)で、コラムを書けることがうれしい。

くものだけに反応してのことで、目の前に虫がいたとしても動かなければ狩りの対象にならない。

私に乗船した日は波が穏やかだったが、船内の机や棚はすべて鎖でつながれており、時化の際の船内の過酷さが見え隠れしていた。

ただ船の速度は遅く、近づいているのかわからないくらいゆっくりゆっくり進んでいく。待ちわびる人たちもデッキから一人二人と減っていく。そんなこんなでみんなが待ちくたびれたころ、ようやく船は上海に入港する。

「飯田という所はローカル色豊かだそうで、電車が四両編成で(会場大爆笑)しかも座席指定なし。三時間揺られて、苦しい思いをしてきました。」

「ある雨の日の情景」「夏休み」「ともだち」「人間なんて」「イメージの詩」など計二十四曲を熱唱された。

押し付けがましく感じ、抵抗があった。そんなメッセーj性の強い歌の中にあつて、全くメッセーj性を感じさせず、当時から気に入っている歌がある。それは「夏休み」

毎年恒例の夜間ソフトボール大会も、今年度で開催から五十回目を迎えることになりました。



スピリッツ vs 芝クラブ(7月30日)

記念すべき第50回目の夜間ソフト開幕

北の大地にあこがれて

~日本から北極圏への旅路~

津田 孝平 #6

および代表者会における協議の結果、七月二十七日より開催することとなりました。

私たちが人類の歴史は三百万八千万年前のアフリカから始まったとされている。

大航海時代から上海行きの船が出ていた。船の名前は蘇州号。三日間かけて日本と大陸との航路をつないでいる。乗客は子ども連れの家族や、日本でもたくさん買物をした富裕層のお母さんたち、ベトナムから日本へ研修に来ていた青年たちが大半を占めていた。

飛行機のエコノミークラスとは違い、ごろごろと寝転がったり、子どもたちと一緒にぎやかに過ごすことができ、とても快適だった。

ただ船の速度は遅く、近づいているのかわからないくらいゆっくりゆっくり進んでいく。待ちわびる人たちもデッキから一人二人と減っていく。そんなこんなでみんなが待ちくたびれたころ、ようやく船は上海に入港する。

「ある雨の日の情景」「夏休み」「ともだち」「人間なんて」「イメージの詩」など計二十四曲を熱唱された。

押し付けがましく感じ、抵抗があった。そんなメッセーj性の強い歌の中にあつて、全くメッセーj性を感じさせず、当時から気に入っている歌がある。それは「夏休み」

新型コロナウイルス禍で移動もままならない時代だからこそ、里山を巡り、川遊び等に興じるなど、地元の良さを再発見・再認識するような機会をいつまでもそこにある。

「飯田という所はローカル色豊かだそうで、電車が四両編成で(会場大爆笑)しかも座席指定なし。三時間揺られて、苦しい思いをしてきました。」

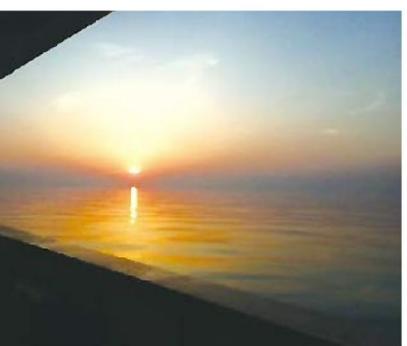
文化祭では、「青春の詩」「今日までそして明日から」「ある雨の日の情景」「夏休み」「ともだち」「人間なんて」「イメージの詩」など計二十四曲を熱唱された。

押し付けがましく感じ、抵抗があった。そんなメッセーj性の強い歌の中にあつて、全くメッセーj性を感じさせず、当時から気に入っている歌がある。それは「夏休み」

「ある雨の日の情景」「夏休み」「ともだち」「人間なんて」「イメージの詩」など計二十四曲を熱唱された。

押し付けがましく感じ、抵抗があった。そんなメッセーj性の強い歌の中にあつて、全くメッセーj性を感じさせず、当時から気に入っている歌がある。それは「夏休み」

押し付けがましく感じ、抵抗があった。そんなメッセーj性の強い歌の中にあつて、全くメッセーj性を感じさせず、当時から気に入っている歌がある。それは「夏休み」



海に沈みゆく夕陽

「飯田という所はローカル色豊かだそうで、電車が四両編成で(会場大爆笑)しかも座席指定なし。三時間揺られて、苦しい思いをしてきました。」

「ある雨の日の情景」「夏休み」「ともだち」「人間なんて」「イメージの詩」など計二十四曲を熱唱された。

押し付けがましく感じ、抵抗があった。そんなメッセーj性の強い歌の中にあつて、全くメッセーj性を感じさせず、当時から気に入っている歌がある。それは「夏休み」

蛇川(野田平)にて

林原多目的広場周辺整備工事完了

テニスコートや東屋が設置されている林原多目的広場をより有効・快適にご利用いただくための周辺整備工事が、7月末に完了いたしました。



伴野堤防開墾の偉業を伝えるDVD 紙芝居『開墾堤防』完成



伴野区では元気づくり支援金を活用して、天竜川伴野堤防の開墾に尽力した地域の偉人「松尾千振」の功績を記した現存の紙芝居をDVD化し、このほど公民館、教育委員会、村内小中学校等に寄贈しました。

歌は世につれ〜七話

「夏休み」…拓郎が四両電車でやって来た… 上佐原 小池 光好

「み」。歌詞には「麦わら帽子 たんぼの蛙、絵日記、花火、畑のトンぼ、西瓜、水まき、ひまわり、夕立、せみの声」といった言葉が散りばめられており、古き良き時代の田舎の夏休みを彷彿させる。現に拓郎は文化祭の時、「ぼくは懐古主義的に夏休みを歌う」と語り、生徒の質問に「昔は良かったということですよ」と答えた。



蛇川(野田平)にて